

令和7年度 第2回 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：令和7年11月21日（金）10時00分から11時40分まで

ところ：南魚沼市役所 2階 大会議室

1 出席者

魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

阿部直実委員（欠席）、風間勇人委員（欠席）、高橋和利委員、星麻衣副会長

○湯沢町

岡本奈緒委員（欠席）、貝瀬健太副会長、高橋淳夫委員（欠席）、
笛木真理恵委員（欠席）

○南魚沼市

上村真史委員（欠席）、関聡会長、田村定子委員（欠席）、湯本真弓委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：企画政策課 渡邊係長

●湯沢町

事務局：企画観光課 田村係長

●南魚沼市

片桐総務部長

事務局：見留企画政策課長、小林行革主幹、渡邊主事

2 議事

【1】開会 （進行：見留企画政策課長）

【2】挨拶 （片桐総務部長）

【3】議事 （進行：関会長）

第3期魚沼地域定住自立圏共生ビジョン（案）について

（説明：渡邊主事）

使用資料・・・参考資料、資料1、資料2、資料3

会 長）前回の懇談会で皆さんからいただいた意見について、一つずつ丁寧に対応があったものと思うが、あらためて意見や質問があればお願いしたい。

委 員）広報に関して、自分事として物事を見るか否かで受け取り方などが異なると

思う。会議前にクマ出没に関する雑談をしたが、自分の生活とリンクし、つながりが深いものが連携事業にあると自分事として見てくれるのではないかと考える。鳥獣対策に関する事業も過去にあったと記憶しているが、そういった時々の課題にすることが連携事業として柔軟に出てくると良いのではないかと思った。

会 長) 前回の懇談会での意見を共生ビジョンに反映いただいたことに感謝申し上げる。コメントした甲斐があったと感じている。

広報に関して話すと、3年前に自社の人事評価制度をゼロベースで見直したことから、新制度について全社員に周知し、理解を得る必要があった。書面やチャットツールにより新制度に関する文書を用意したが、内容が長文であったため閲覧する社員が少なかった。また、概要版を作成し、管理職を集めて会議を開いたが、大きな効果が見られなかった。そのため、15分程度の説明動画を作成したところ、結果として70%から80%ほどの社員が閲覧し、有効であったと感じている。共生ビジョンの取組についても紹介動画を作成し、ホームページでの公開や市報にQRコードを掲載することで、住民の方々も見てくれるのではないか。

また、人事交流については、人手不足の中ではあるが、異なる環境で働くことが有益な経験になることを自分自身の経験からも感じているため、ぜひ前向きな検討をお願いしたい。

委 員) 我々が意見したことについて、正確かつ丁寧に対応いただき、感謝申し上げます。雪やクマによる被害について、マスコミの報道が過熱しているところではあるが、マスコミの報道に負けずに共生ビジョンの取組などについて発信していただけたらと思う。

委 員) 本日の資料作成等、対応いただき感謝申し上げます。本日の議事について特段の意見はないが、共生ビジョンの策定に当たり、我々共生ビジョン懇談会委員の意見だけでなく、学生等の若者や地域の活性化に取り組んでいるの方々などの意見を幅広く聞くことで、新たな発見を取り入れることができたらと思う。

会 長) 我々委員からも今後のパブリックコメント実施について周知を行い、学生等の若者を含めた市町民の方々から意見をいただけたらと思う。

委 員) 意見に対する回答を書面で用意するなど、わかりやすく丁寧に対応いただいたと思う。また、共生ビジョンの表紙も2市1町の特徴を考慮して作成されたものと感じている。

私も特段の意見はないが、各委員からの発言などを踏まえてお話をしたい。

まず、共生ビジョンについて、自分事として意識してもらうことが大切なのではないか。私は委員として参加しているため、例えば囲碁・将棋大会等の取組がこの共生ビジョンに基づくものであることなどを認識できるが一般の方々はなかなかそう思って見る人はいないと思う。自分事として捉え、意識が変わってくると違う意味でも興味を持つようになると考える。

自転車に関する話になるが、魚沼市は南魚沼市・湯沢町より取組が進んでいないのではと感じることがあるが、現在は協議会等の組織設立といったことから始めるという話を聞いている。徐々に機運が高まり、南魚沼市・湯沢町の状況に揃えていきたいという思いがあるため、2市1町の共通の目的に向かって取組を進めることは何かを進めるきっかけになり、良いことだと思う。

先ほど若者たちの意見を計画に反映させるという意見があったが、魚沼市ではコミュニティ・スクールの取組が盛んであり、これからどのような地域やまちをつくっていくかという話し合いなどを大人と子どもたちで行っている。そういった子どもたちの思いを計画に載せられる内容があっても良いと思った。

紹介動画の作成について、書面形式だと読み取る必要があるが、動画形式であれば倍速で聞き流すこともでき短時間で多くの情報が得られるため、有効であると思った。良い共生ビジョンだと思うので、受け手に応じて様々な媒体を活用して、情報発信に努めてほしい。

会 長) 皆様から意見をいただき感謝申し上げます。本日の意見を事務局でまとめていただき、パブリックコメントを実施するというところでよろしいか。

委 員) 異議なし。

会 長) 前回の懇談会の意見が反映されたことに感謝する。それでは、本日の意見を踏まえて共生ビジョン(案)をパブリックコメントにかけることを承認することとし、これにて議事は終了としたい。

会 長) 議事が予定よりも早く終了したが、せつかくの機会のため、共生ビジョンに関することを含め、何か聞きたいことなどはないか。

委 員) 南魚沼市地域公共交通協議会における取組の進捗状況等を確認したい。

片桐部長) 令和7年10月に次世代交通推進本部を立ち上げた。現在、鉄道とバスにより公共交通が担われているが、本数・路線数が減少している。それを補完する形で市民バスを運行しているが、それでもなお限界がある状況。

そのため、効率的なルートや配車計画を自動で判定する AI オンデマンド交通を導入する。令和 8 年度に地理的条件から導入しやすい上田地区で開始し、3 年以内を目途に市内全域に広げていく予定。

運行するのは民間事業者だが、AI オンデマンド交通の導入に係る費用は市が負担する。また、利用客数が多い朝夕の時間帯は通常の路線バスを、少ない昼の時間帯は AI オンデマンド交通をといた時間帯での棲み分けを組み合わせる。

その他、新潟県全体として取組が遅れているが、自動（無人）運転の実施についても構想がある。この豪雪地域で実施できれば、日本全国で導入が可能となる。

委員) もちろん子どもも大事だし、大人や高齢者も大切。住民の方々と行政が一緒になって取組を進めてほしいというのが一番の思い。利便性の低さといった理由から、若者が都会に憧れ、首都圏などに流出してしまうという悪循環になっている。

委員) AI オンデマンド交通では、バス停は関係なくなるということか。

片桐部長) 理論上、指定した場所をスマートフォンで連絡することでバス停を無限に作ることができるが、電話で予約される場合を考慮し、現状では約 400 地点を目安に検討している。

会長) 事業者にとっても効率化につながると思う。タクシーやバスの収益悪化と人手不足を理由として廃業となってしまうえば、地域にとって大きなダメージになるため、ぜひ取組を進めてほしい。越後湯沢駅付近の夕食漂流者対策にもつなげられたらと思う。

事務局 (魚沼市) 昨年度から魚沼市でも AI オンデマンド交通「のるーと魚沼」の取組を行っている。市内の専門業者への委託によりコールセンターを設けることで高齢者等による電話予約にも対応している。

委員) 「のるーと魚沼」は最も利用したい夜の時間帯に使えないという課題がある。

また、圏域全体での公共交通の話をする、最終列車が越後湯沢駅止まりの場合に魚沼市までの帰宅方法に悩むことがある。

その他、響きの森文化会館で開催されるライブやコンサートに行く際、浦佐駅からタクシーを利用すると高額になる一方で、小出駅からタクシーを利用してもさほど料金が変わらない状況。2 市 1 町で連携することの難しさもあると思うが、このような圏域全体における公共交通の課題解決に向けて取り組んでほしい。

委員) 少子化の進展により、スクールバスの運行が困難になりつつある。また、高齢者の免許証返納といった観点からも公共交通の取組は重要と考える。

委員) 都市部では、定額で一定期間乗り放題といった仕組みがあるが、AI オンデマンド交通において、このような定期券を導入する予定はあるか。

片桐部長) 今後そういった仕組みづくりを検討する予定。例えば、ポータルアプリの中に乗車券のようなものを導入し、その中で共生ビジョンの取組を含めた行政情報を一括して発信できると、周知不足という広報に関する課題解決にもつながると考えている。

【4】閉会（関会長）

(11時40分閉会)